新生児科

（スタッフ）

統括部長（第一新生児科・第二新生児科）
：飯田　浩一（2020. 10 月から）
部長（第一新生児科）：長友　太郎（2020. 10 月から）
：飯田　浩一（2020. 9 月まで）
部長（第二新生児科）：赤石　睦美
副部長　：米本　大貴
：慶田　裕美
主任医師　：中嶋　美咲
：岩﨑　智裕
嘱託医　：香月　比加留
小児科専攻医　：吉里　倫
非常勤　：高橋　瑞穂
の10名体制です。飯田から慶田までは周産期（新生児）専門医を取得しています。

（診療実績）

表１　2020 年の入院と転帰

（ ）内：死亡数

BW（g）	2019 年	2020 年
- 499	3	0
500- 749	4	5(1)
750- 999	10(1)	5
1000-1499	17	14(1)
1500-1999	38(1)	39
2000-2499	97	120(1)
2500-3499	149(2)	201(2)
3500-	29	37
計	347(4)	421(5)

2020 年の大分県周産期医療体制の大きな変化は地域周産期センターであったアルメイダ病院周産期センターが閉鎖になったことです。これに伴い 2020 年４月から当院 NICU が９床から 12 床に増床になりました。表１に出生体重別入院数を昨年と対比させて記載します。総合周産期母子医療センター新生児病棟に入院した全ての児（新生児科、小児外科、他科を含む）で、再入院した児は除いています。

2019 年より総入院数は 70 人以上増加しています。以前はアルメイダ病院の周産期センターに入院していた児の一部が当院に移ってきたものと考えられます。アルメイダ病院は軽症例が多かったことから、当院でも出生体重の大きい児の入院が増加しています。1,000g 未満の超低出生体重児は 10 人、極低出生体重児まで含めても 24 人と年々減少の傾向にあります。大分県全体での出生数の減少傾向は続いており、今後もこの状況は続いていくと思われます。2020 年もまた 22 週台で出生した児を救命することができました。

図に過去 10 年の経年変化を示します。前述しましたようにアルメイダ病院周産期センターの閉鎖により入院数は大幅に増加しましたが、軽症例が多かったため人工呼吸器患者や極低出生体重児の増加はなく、死亡数も大きく変わりませんでした。

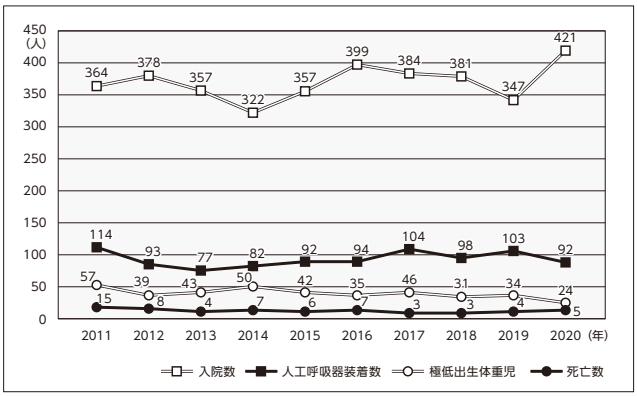

図　過去 10 年間の各指標の変遷

表２　カンガルー号出動件数

	2019 年	2020 年
	出動（件）	出動（件）
搬送入院	55	105
三角搬送	10	2
県病から転院	12	11
県病に転院	8	4
立会いのみ	6	5
合計	91	127

新生児専用ドクターカー（カンガルー号）の出動件数は 127 件と前年に比して大幅に増加しました。うち２件は出動依頼が重複して自治体救急車を利用してのドクター搬送となっています。県外へのヘリコプター搬送が１件ありました。アルメイダ病院周産期センターの閉鎖に伴い当院への出生後搬送依頼が増加した結果と考えます。逆に、当院が増床して総ベッド数が増えたことにより満床のためカンガルー号で迎えに行って他院へ搬送した三角搬送事例が２件と減少しています。

表３　医療圏別の出動件数

医療圏	2019 年	2020 年
中部	55	92
北部	3	3
東部	1	3
南部	2	9
豊肥	3	1
西部	10	7
県外	17	11

出動した医療圏別の件数では大分市を主とした中部医療圏への出動が増加しています。アルメイダ病院周産期センターの閉鎖によるものと考えます。出動数の増加に伴い出動依頼が重複することがあり、その際は自治体の救急車を活用してのドクター搬送となります。現状、大分市外の場合は医師がタクシーに保育器を積んで出動し現場で自治体救急車を要請して搬送する体制になっており、時間がかかっています。今後の課題と考えます。

（研修・教育）

新生児蘇生法講習会は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い開催中止が多くなりました。2020 年は一次コース１回、専門コース２回、スキルアップコース３回の計６回しか開催できませんでした。医師、助産師、看護師、学生を対象に 62 人の方が受講しました。例年、救命士の方たちも対象に開催していましたが、2020 年は残念ながら組み込むことができませんでした。インストラクターの資格を持った看護師にも手伝ってもらいながら講習会を継続しています。2021 年には新生児蘇生法が 2020 年版にアップデートされるため、なんとか開催回数を増やしていきたいと思います。

（今後の方向性）

全国的な出生数の減少と同様、大分県でも出生数は減ってきています。2020 年はアルメイダ病院の周産期センター閉鎖に伴い大分県全体で新生児が入院できる病床数が減少し、他県に搬送せざるを得ない事例が出るのではないかと危惧されましたが、幸いにもそのようなことはありませんでした。少子化と新型コロナウイルス感染症の影響で出生数はさらに減少すると見込まれており、大分県全体での病床数は充足していると考えられます。ただ、出産には波がありますので多い時には病床の余裕がなくなることがあります。今後も他施設と連携しながら他県に搬送することがないように運営していきたいと思います。

周産期医療全般の課題として、NICU 退院後の医療的ケア児へのサポート、特定妊婦などの社会的ハイリスク家庭へのサポート、災害時の妊産婦・新生児・小児へのサポートがあります。生まれて退院するまでではなく、生まれる前から、そして、生まれた後も長期にわたってフォローが必要となってきます。2020 年には精神医療センターも開設し、精神疾患合併の妊婦も増加してくると思われます。産科・新生児科だけでなく、小児科、小児外科、精神科など多くの診療科の協力を得ながら母児をサポートしていきたいと思います。退院後も医療だけでなく、福祉、行政、教育機関との連携が必須です。保健福祉センター、県市町村の母子保健担当、児童相談所、訪問診療･看護、教育委員会などとの連携を今まで以上に密にしていきたいと思います。

また、大規模災害に備えての準備も必要となります。新しくできた小児周産期リエゾンが DMAT との連携を構築していく必要があり、今後訓練を通してより緊密な関係を作っていきたいと思います。

当院は小児科専門医養成のための基幹施設となっています。令和３年度は６名の小児科専攻医を受け入れます。これからは若い先生たちにとって魅力ある周産期医療を提供できるように教育面を充実させていきたいと思います。

今後ともご指導のほどをお願い申し上げます。

【新生児科診察担当医】

月曜から金曜まで毎日行っています。

月	火	水	木	金
赤石	飯田	慶田	赤石	飯田
交代	慶田		米本	米本

先天異常、発育発達の問題、育児不安など新生児・乳児期の発育発達全般に関して診療しています。必要があれば小児科、小児外科など他科との共同診療、または行政、福祉、学校などとの連携も行っています。

（文責：飯田浩一）